

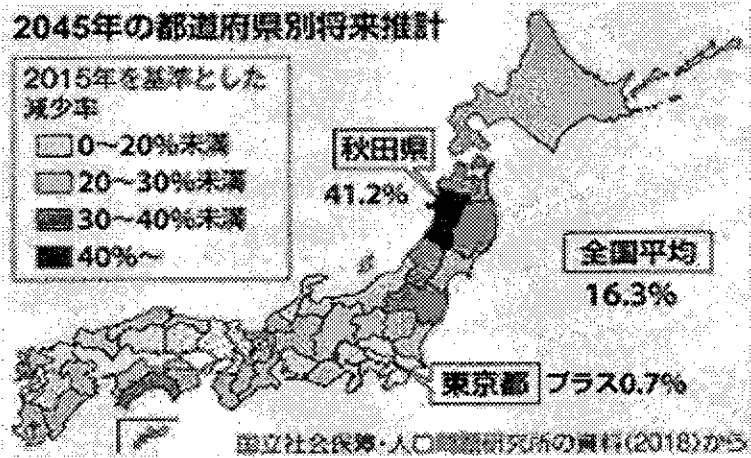
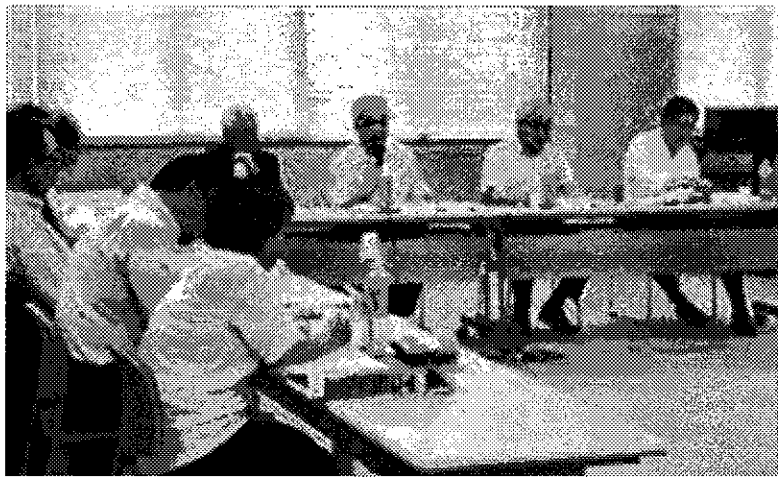
秋厚労ニュース

NO1924号
2019年10月30日
秋田県厚生連労働組合
秋田市山王5-4-2
TEL 018(864)3341
FAX 018(864)3349

地域医療構想

調整会議の報告

今年7～8月に全県8区域（医療圏）ごとに地域医療構想調整会議が開催されました。
各区域にそれぞれ傍聴してきました。



病床削減を目指す地域医療構想

「地域医療構想」は「医療介護総合確保推進法」に基づいて各都道府県で策定されました。

地域医療構想の趣旨は、「人口減少に伴い患者も大きく減少し、病院経営に大きく影響を与えることが予想される中で、将来を見据え、いかに医療資源を有効に活用し、効果的な医療提供体制を構築していくかということ」と県が説明しています。

今回の地域医療構想調整会議では、現状の病床数と「地域医療構想における2025年の病床の必要量（必要病床数）」をもとに、地域偏在、不足が見込まれる機能に

地域医療は崩壊

秋田県は人口減少率全国トップで2040年には県全体で70万人台（現在約96万人）になるといわれており、現状の医療体制を維持することは困難だと考えられています。しかし医療費抑制を主目的とした病床削減を推し進めるのであれば地域医療は崩壊してしまいます。

参加者の切実な訴え

各医療圏で参加した医療関係者は「医療は地域に必要なインフラ、地域が崩壊し衰退に拍車がかかる」と口を揃えています。

「地域医療構想」は「医療介護総合確保推進法」に基づいて各都道府県で策定されました。

地域医療構想の趣旨は、「人口減少に伴い患者も大きく減少し、病院経営に大きく影響を与えることが予想される中で、将来を見据え、いかに医療資源を有効に活用し、効果的な医療提供体制を構築していくかということ」と県が説明しています。

今回の地域医療構想調整会議では、現状の病床数と「地域医療構想における2025年の病床の必要量（必要病床数）」をもとに、地域偏在、不足が見込まれる機能に



住民の声を反映して

医療は住民のものです。今後、住民や地域の医療関係者の声をどのように吸い上げるのが問われます。国の政策なのか、住民・医療関係者が地域の実情にあった医療をつくるために秋田県や自治体に向けて声を出すことが大切です。